



地域とのかかわり
紹介します!

施設・事業所の 地域活動 レポート



No.5 社会福祉法人 九州キリスト教 社会福祉事業団

中津総合ケアセンターいずみの園
在宅サービス事業部 次長

伊藤保幸



在宅サービス事業部では、利用者ができるだけ住み慣れた地域で生活続けることができるように、部内でつながりを持ってサービス提供を行っている。現在は、地域包括支援センターの中で認知症支援と介護予防に力を入れている。地域・行政・医療介護・関係機関などとネットワークをつくりながら、さまざまな機会を通して、地域の方々と共に歩んでいくために、アウトリーチに心掛けている。

施設概要



住所：大分県中津市永添2744番地

ホームページ：http://www.izuminosono.jp/

設立：1968年法人設立、1978年特別養護老人ホームいずみの園設立。

併設施設 ※（ ）内は定員

【入所入居サービス】特別養護老人ホームいずみの園（平均介護度4.2）（100人）、短期入所生活介護（27人）、ケアマンション聖愛ホーム（50人）、シニアレジデンスいずみの森（戸建てタイプ）（14人）

【在宅サービス】通所介護4カ所、訪問介護1カ所、訪問看護1カ所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1カ所、夜間対応型訪問介護1カ所、寄り合いセンターいずみ（小規模多機能型居宅介護）、グループホーム3カ所（認知症対応型共同生活介護）、介護保険サービスセンター（指定居宅介護支援事業所）、中津市地域包括支援センターいずみの園

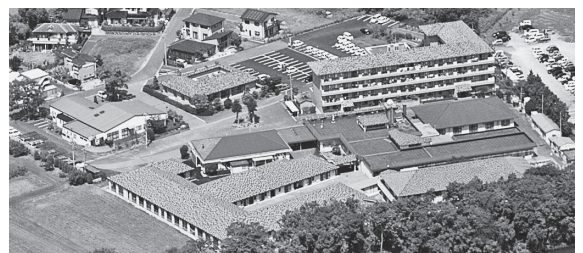
【障がい者（児）支援事業】障害者生活支援センターエマオ（相談支援事業所）、多機能型事業所ワークセンターシャローム（就労継続支援A型10人、B型10人）、生活介護いずみの丘エステル（6人）、児童発達支援・放課後等デイサービス（10人）

【児童サービス】児童クラブ、子育て支援センター、マリアガーデン（事業所内保育所）

【生活困窮者に対する相談支援事業】地域公益課

立地：北に周防灘を望み、英彦山付近を源流とする山国川を挟んで福岡県に隣接し、国道10号線と日田耶馬溪に向かう国道212号線が交差する交通の要衝に近接している中津市永添に本部があります。ほかに、市の中心部の蛸瀬にかきぜサポートセンター、住宅が多く立地している中津市万田に中央サポートセンターがあります。

基本理念：神と人にと仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神



当法人は、1968（昭和43）年大分県大分市において「めぐみ保育園」を開設し、続いて中津市に「グレース保育園」、福岡県みやこ町に「^{さいがわ}犀川のぞみ保育園」を開設しました。1978（昭和53）年、時代の要請を受け、中津市に「特別養護老人ホームいずみの園」（以下、当園）を設立しました。以来、施設サービス、在宅サービス等高齢者事業を積極的に展開し、2013年に障がい者支援および児童サービス事業への取り組みも本格的に開始しました。

「キリスト教の愛と奉仕の精神」を基本理念とし、職員は信・望・愛の心をモットーとしてケアに精励しています。また、「アメニティ（快適サービス）」「ヒューマニティ（人権尊重）」「ローカリティ（地域密着）」をサービスのコンセプトとしています。

当法人は、2012年4月を起点とする「新5カ年プラン」を策定し、順調に推移しています。当園は、2018年に創立40周年を迎えますが、今後、地域包括ケアシステムを推進する中で、社会福祉法人としての「公益性」「先駆性」「独自性」を堅持し、地域福祉の拠点としての役割をしっかりと果たしていきます。



地域展開の目的と主旨

2001年11月1日、富永理事長より、当園のコンセプトとして「アメニティ（快適サービス）」「ヒューマニティ（人権尊重）」「ローカリティ（地域密着）」が掲げられました。これは、2000年の介護保険導入を見据えた「施設改革3カ年戦略」の後に定められ、私たち職員の目指すべき目標となりました。

2012年度に「新5カ年プラン」が策定され、その中で地域包括ケアシステムの推進と関連し、地域展開では「地域との連携強化、地域コミュニティの拠点化、共生型サービスの推進」等が盛り込まれました。

当園の地域包括ケアシステムの取り組み

当園における地域包括ケアシステムのコンセプトと対応・対策は次のとおりです。

【コンセプト】・住み慣れた地域で最期まで自由に暮らしていただく

・良質な特養ケアの地域展開，24時間365日在宅生活支援

【対応・対策】①定期巡回・随時対応型訪問介護看護

②地域サポートセンター：かきぜサポートセンター（小規模多機能型居宅介護，グループホーム），中央サポートセンター

③認知症対策，医療との連携：認知症カフェ，徘徊模擬訓練

④「高齢者，子ども，障がい者，貧困」総合対策

⑤地域との連携

当園は、大分県中津市永添^{ながそえ}のほかに、中津市のかきぜ^{かきぜ}、まだ^{まだ}、かみじょすい^{かみじょすい}、蛸瀬、万田、上如水に拠点ががあります。それらの拠点には、さまざまな介護支援等に関する施設、機関（センターなど）が設置され、それぞれの機能を持っています。当園の「地域」とは中津市のことであり、利用者の日常生活の範囲（日常生活圏域）と重なっています。

「地域包括ケア」では、社会資源がつながり（ネット）合って機能します。それぞれの社会資源が脳神経のシナプスのようにつながり、互いに情報を伝達しその機能（ワーク）が発揮されます。これがネットワークです。利用者のニーズに基づいて相談を受け、つなげていき、それをコーディネートしていくのが地域包括支援センター、介護保険サービスセンター、障害者生活支援センターエマオおよび地域公益課の役割です。



地域包括ケア

当園は、利用者のニーズ（課題）について相談を受け付け、社会資源とその機能（サービス）をニーズが充足されるまで柔軟に組み合わせて対応していきます。

現在当園では全27事業を展開し、それらを市内5カ所の拠点に集約しています。旧・中津市内の地区を30分圏域内に網羅し、サービスを一体化して提供していくことが当園の地域包括ケアシステムです。

ここで要となるのは、住まいにおいて24時間365日途切れることなく継続してサービスを提供することです。次に、これら地域包括ケアシステムを5つの視点で紹介します。

- ①医療との連携 病院とケアマネジャー・訪問看護・リハビリテーションとの入退院時の情報共有を行っています。介護職員による痰の吸引やその他の日常生活に必要な行為等が、医師の指示の下で実施できるようになったことから、介護と医療の連携を図るようになりました。
- ②介護 介護サービスでは、特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護事業所・グループホームの整備を強化しています。24時間対応の在宅サービスでは、夜間対応型訪問介護と定期巡回・随時対応訪問介護看護（コールセンター）を中心に、ヘルパーと訪問看護の連携、小規模多機能型居宅介護へ看護師を配置し、協力医療機関と連携しています。このように医療と連携しながら安心感の提供、利用者ニーズや生活スタイルに合ったサービス提供を行っています。
- ③介護・認知症予防 地域包括支援センターや人材育成・研修センターが介護予防教室や出張介護教室を行い、運動や認知症予防等に取り組んでいます。その他に、特別養護老人ホームの入居者は週1回、アウトデイ（逆デイサービス）として中津市内のボランティアグループによって運営されているサロン「すずめの家」で1日を過ごしています。
- ④生活支援 ヘルパーによる有償の生活支援サービス（買い物、調理、受診同行など）や特別養護老人ホームの売店「えがおや」を行っています。
- ⑤住まい ケアハウス（定員50人）、戸建て有料老人ホーム（8戸）があります。

地域包括ケアをシステムにする

これまで述べてきた当園における地域包括ケアは、その多種多様な構成要素が有機的なつながりを持って互いに連動し利用者や家族、さらには地域社会に寄与できるよう能動的に機能する仕組みとなっています。

当園では「新5カ年プラン」に基づき、次の項目を推進しています。

- ①「中津総合ケアセンターいずみの園」の構想（この中で地域包括ケアシステムの推進が謳われています）



- ②「障がい事業」の開発 ③共生型「かきぜサポートセンター」事業の推進
- ④新規事業の開発 ⑤事業団組織・機構改革
- ⑥サービスの質の確保 ⑦ワーク・ライフ・バランス

その中で、地域包括ケアの推進が当園の進むべき道の“一丁目一番地”です。

地域展開

当園と地域で取り組んでいる地域展開について、いくつか紹介します。

地域との連携

①地域住民と行う地域づくり

「かきぜサポートセンター」がある蛸瀬地区の自治会では、毎月、地区の防犯パトロールを行っています。当法人も児童クラブを開設しているため、児童の下校時の安全の見守り役として参加するようになりました。

小学校の下校時間に合わせて行うパトロールに参加することで、危険箇所などが把握でき、すれ違う住民とあいさつするなど交流が図れています。



また、当園の防災の取り組みを通して地域から依頼を受け、自治会を代表して2人の職員が防災士の資格を取得し、自治会主催の津波を想定した避難訓練の企画、運営にかかわっています。

地域と共に歩き、地域に不足していることを補い、地域住民として職員一人ひとりがマンパワーとなることが大事だと思います。施設内で祭り等を企画し、地域の方々に来てもらうだけでなく、施設から出て、地域の祭りに参加することで地域の中での事業が行えるのだと思います。

②「出張介護教室」の取り組み

一般県民の方なら誰でも、無料で高齢者介護の知識や技能を学べます。年間を通して、高齢者の福祉・介護の問題、福祉体験、実習等各種の介護教室、研修事業を開催しています。また、福祉・ボランティアに関する情報提供も行っています。



出張介護教室では、福祉を学び、高齢社会を皆で支え合う福祉の普及活動を行っています。福祉関係の経験や知識が豊富な人材を地域の介護教室に派遣することで、地域の介護に関する知識の獲得に役立っています。

地域コミュニティの拠点化

①定期巡回・随時対応型訪問介護看護の展開

2012年5月より事業を開始し、日中・夜間を通じて24時間、巡回訪問と随時訪問を行い、訪問介護と訪問看護の一体的なサービス提供を行っています。

1日短時間、複数回の訪問によって食事や体調の管理、服薬確認等を行い、遠く離れた家族に何かあれば連絡をすることで、在宅生活の継続や安心・安全の提供につながっています。



②高齢者徘徊模擬訓練を通して得たこと

当園では2005年10月に中津市の委託を受けて、上如水団地で中津市高齢者住宅等安心確保事業（シルバーハウジング事業）を実施しています。生活援助員のいる事務所には介護相談などを目的に訪れ、サロンのように過ごす方もいらっしゃいます。上如水団地は居住者の入れ替わりが多く世代間のつながりが希薄なことや、65歳以上の世帯や独居高齢者の増加が課題でした。

そこで2013年3月に、上如水団地、中津市役所および地域包括支援センターの共同で、大分県で初めて高齢者徘徊模擬訓練を開催しました。それ以降、毎年1回開催しています。自治委員や民生児童委員をはじめとした地域住民だけではなく、子ども会、市内の高校生、介護事業所、警察および消防団にも参加していただき、2015年は約150人が参加しました。

徘徊模擬訓練を通して地域で助け合う気持ちが醸成され、認知症による行方不明者が出た時は民生委員の呼びかけで近隣住民、警察が捜索することで、徘徊を「個人の問題」から「地域の課題」へ昇華させることができました。





共生型サービスの推進

①福祉の里センター サマリア館

地域で共生社会を実現するには、三世代の交流の場づくりが必要と考え、この施設を開設しました。この事業はご近所づきあい、中津の下町づくり、広場がつくる街のにぎわいを通して、「多世代間の交流」「共生社会の実現」「次世代への文化伝承」が行われることを目標としており、中津城下町の蛸瀬地区の各年代層にとって有益な社会資源となり、「社会の豊かさ」につながっていくことを願っています。



②福祉マインドの醸成と自立

児童クラブ「ピーター」「ポール」では、2011年から市内の児童養護施設に入所している高校生を夏休みなどの期間にアルバイトとして雇っています。子どもたちは、年齢の近い女子高校生に「おねーちゃん！」と声をかけ、一緒に遊ぶ姿が見られます。彼らは、アルバイトで得た賃金を、今後社会に巣立つ際の準備資金としています。

地域で困難な状況にある高校生にとっては、側面的な経済援助を通して社会と触れ合い、福祉について客観的に評価できる機会となっています。それは、彼らの自立に役立つものと考えています。



生活困窮者等相談支援事業

2015年4月、社会福祉法人の公益性、公共性、先駆性を発揮するために、社会貢献活動の強化を図りました。その担当部署として地域公益課を新設し、専任のコミュニティソーシャルワーカーを配置しました。同年7月には、大分県社会福祉法人社会貢献活動推進協議会が設立され、基金を創設し、「おおいたくらしサポート事業」の中で生活困窮者等に対し、心理的な不安の軽減や公的なサービス等を紹介し、生活困窮の原因となるさまざまな福祉的課題の解決を図っています。

当法人は大分県北圏域の基幹的相談機関として、圏域内のコミュニティソーシャルワーカーの指導や同行訪問をしています。また、中津市内のコミュニティソーシャルワーカーで「中津CSW連絡会」を組織し、生活困窮者自立支援機関とも「^{ふくすけ}福助ネットワーク」をつくり、制度横断的に活動しています。

生活困窮相談では、失業に伴う困窮が多く、対象者が持っている課題が複数にまたがり重層的になっています。何らかの障がい（精神障がいや発達障がい）やその傾向にある方も多いため、社会経験の少なさや周囲の無理解などから、就労継続や就労自体が困難になっているケースもあります。

現状の課題と展望

私たちは「キリスト教の愛と奉仕の精神」という基本理念の下、地域の皆様と共に歩み、地域の皆様の支えを得て、社会福祉法人としての公益性、公共性、先駆性および法人の独自性といった使命を果たせるように努めています。

将来を見据え、当園は高齢者だけではなく、障がい児・者、子ども・子育て中の母親に支援を行っています。先述したように、蜷瀬地区では2015年4月に、地域のさまざまな方が集える場

所として共生型施設「福祉の里センター サマリア館」を開設し、高齢者のデイサービス、訪問看護、児童クラブ、子育て中の母親への支援として地域子育て支援センター、障がいのある児童への児童発達支援・放課後等デイサービス、障害者生活支援センター（分所）の事業および地域住民の方々への地域交流の場づくりを行っています。

地域共生社会の実現に向けて横断的に支援を行い、地域の方々が共に支え合い、自立した生活を送ることができるように、また、その責務を果たせるよう努めていきたいと思ひます。

《新企画》心から防ぎたいと考え、行動につながるアプローチを学ぶ

どうすれば止められるのか

虐待・不適切ケア防止の具体策



林田俊弘氏

NPO法人ミニケアホームきみさんち
理事長
有限会社自在 取締役社長



プログラム

1. 虐待のはじまりは不適切ケア、そして無自覚な虐待
自身の経験や身近な事例を踏まえて、そもそも虐待とは何かを理解。
2. 追い詰められやすい職員のタイプとガス抜きの仕方
虐待に向かいやすい職員のタイプを知り、未然に防ぐためのアプローチ法(OJT等)などを具体的に学ぶ。
3. 虐待・不適切ケアを防止するチーム作り、組織作りの具体策
目的の共有、コミュニケーションを高める方法など具体的な事例を踏まえて指導。
4. 職員の感情と思考を深めるために管理者がすべきこと
職員の悩みへの向かい合い方や面談方法など、体験を踏まえて学ぶ。
5. 効果的な施設内研修の行い方
体験学習など効果的な研修プログラムの例示や実施の仕方、研修を実践にいかすためのポイント。
6. 質疑応答

東京

17年 2/18 (土)
連合会館(旧(財)総評会館)

名古屋

17年 3/19 (日)
日総研ビル

福岡

17年 4/16 (日)
日総研 研修室(第7岡部ビル)

[時間] 10:00~16:00

参加料/税込 本誌購読者 15,500円 一般 18,500円

日総研 14445

検索